令和７年６月 20 日

乳製品需給等情報交換会議における御意見

東宗谷農業協同組合

○　北海道では生乳生産が伸びており、今後、頭数減少の影響が出てくるとみられるものの、一頭当たり乳量が増えると、簡単に頭数減少分をカバーできてしまう。現在、進行している牧草の収穫については、今のところ良好な天候であり、牧草自体もそれなりの収量があり、生育状況はそれなりに良いものと思われる。

○　一方で、３月以降、飲用需要がずいぶんと落ちており、なかなか厳しい環境になってきたと考えている。

○　今後不安なのは、脱脂粉乳の在庫数量が令和７年度末には８万１千トン水準になるとのことであり、先々、生産抑制をしないと厳しい環境になるのではないかと懸念している。

○　今回の検証では、カレント数量の範囲内に据え置きということで、輸入はこの程度にとどめていただければと考えるので、よろしくお願いしたい。

ホクレン農業協同組合連合会

○　生産者戸数については、令和７年５月末現在で、本会への受託戸数は 4,192 戸となっており、昨年同期から約 200 戸程度の離農があり、依然として離農率は高い水準で推移している状況にある。

○　生産現場では、配合飼料価格の高止まりや生産資材の高騰など厳しい経営環境が継続していることから、６月から乳製品乳価、８月からは飲用乳価の引き上げとさせていただいたところ。ユーザーの皆様には酪農を取り巻く環境にご理解いただきたい。

○　一方、需要面については、本年３月以降、各種物価高の影響等から振るわない状況が継続し、本会の用途別取引においても、飲用は前年を下回り、脱脂粉乳・バター向けは前年を上回り、生乳処理に苦慮してきた経過にある。

○　乳製品の需給は、飲用向け生乳需要や生乳生産量の動向によっても左右されること。また製品価格の改定や乳価の引き上げもあり、これらによる影響も注視してゆく必要がある。

○　脱脂粉乳の在庫については、今回更新された需給見通しにおいては、７年度末は８万㌧水準になっている。

○　また、バターについては、令和６年度においては追加輸入が実施されたところであるが、令和７年度末のバター在庫は、１月時点では２万㌧前半水準の予測であったものから、今回の試算においては３万㌧と増加する見通しとなっている。

○　このことから、バターについては追加輸入といった情勢ではないと認識しており、輸入枠の運用については、これらの状況を踏まえカレントアクセス内での対応をお願いしたい。

○　また、脱脂粉乳は８万㌧と高い水準にあるともとらえられ、バターとの跛行性があるなか、在庫低減に向けた需要拡大等への対応についてもよろしくお願いしたい。

一般社団法人中央酪農会議

○　この度、Ｊミルクが取りまとめた需給見通しにおいて、バターの在庫量は、最も水準の低くなる第３四半期においても 4.1 カ月分が確保できる見通しになっています。

○　生乳生産者団体においては、今年度の需給安定化対策においても、国内のバター需要に対して国産で供給していけるよう生乳生産を行うことを基本方針として掲げており、これまでの生乳生産量（本年１月以降の生産実績）も、１月時点のＪミルク予測数量を上回る水準で推移しています。

○　また、今夏には、乳製品、牛乳類ともに小売価格の値上げが予定されており、牛乳・乳製品需要に影響を与えることも想定されます。

○　こうした状況を鑑みた場合、バターの在庫量は、予測を上回る可能性が十分に考えられるため、年初に設定した輸入枠を変更する必要性は考えられないことを意見として申し上げます。

○　生乳需給が緩和傾向で推移するなか、生産者団体においては、需要拡大を含め、需給安定に向けた取り組みを進めております。農水省からの引き続きのご指導、ご支援をお願い致します。

一般社団法人Ｊミルク

○　2025 年度の生乳生産量は、前年からやや減少すると見込まれ、北海道では引き続き前年を上回る水準が維持されるものの、都府県では４年連続で前年を下回ると見込んでいる。

○　こうした中、６月に乳製品向け乳価、８月には飲用向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待されている。一方で、需要面では牛乳類が依然として前年を下回る状況が続いており、今後の製品価格改定が需要に与える影響について注視する必要がある。

○　脱脂粉乳の需給は、生・処が協調して進めてきた在庫対策の効果もあり、2024 年度末在庫量は 52 千㌧で着地したが、対策数量を加味しない実需ベースでは、依然として需要量が供給量を下回ると見込まれており、乳価改定により消費が減退した場合、脱脂粉乳の在庫量が想定以上に積み上がる懸念がある。

○　一方、国産バターについては、依然として単年度の需要量が国内生産量を上回る状況が続くと見込まれるが、生乳生産量の動向や乳価改定の影響が想定の範囲内であれば、大きな過不足による市場の混乱は生じないと見込まれる。

○　脱脂粉乳とバターの需要不均衡の構造的な課題は依然として解消されておらず、今後も一層の推進が求められるが、市場に混乱を生じさせることのないよう、「不足」などの事態を回避するためにも、夏以降の需給動向を綿密に把握し、適切かつ機動的な対応を図っていくことが必要である。

一般社団法人日本乳業協会

（生乳生産）

○　本年度の生乳生産は、２歳未満の雌牛の減少傾向を反映して、年度後半から減少に転じると見込まれている。しかしながら、①６月からの乳製品向け乳価及び８月からの飲用向け・発酵乳向け乳価の引き上げに加え、②為替レートがやや円高方向に転じつつあること等から、生産意欲が刺激されて配合飼料給与量が増加し、搾乳牛１頭当たり乳量が増え、２歳以上の雌牛の残存率も想定以上に高くなる可能性がある。

○　こうした結果、本年度産の自給飼料の品質いかんにもよるが、生乳生産は想定よりもやや上振れする可能性がある。

（バター）

○　バターについては、６月からの乳価引き上げに伴い価格改定がなされるものの、輸入バター価格も高騰していることから、国産品に対する需要は比較的堅調に推移すると見込まれる。

○　他方、前述のとおり、生乳生産は昨年度を僅かに下回ると見込まれているものの、やや上振れする可能性が高い一方、飲用需要は、価格改定により下振れする可能性が高いことから、バターの生産は本年度を僅かに上回るものと見込まれる。

（脱脂粉乳）

○　脱脂粉乳は、アイスクリーム類向けの需要は比較的堅調に推移し、最大の需要先である発酵乳の生産も、昨年 10 月以降回復傾向で推移している。しかしながら、その他の需要は依然として振るわないことに加え、乳価の引き上げもあり、本年度も需要全体としては低調に推移すると見込まれる。

○　このため、脱脂粉乳の需給は、依然として跛行性とともに緩和傾向が続くものと見込まれる。

（まとめ）

○　以上のような需給見通しを踏まえ、国家貿易によるバター及び脱脂粉乳のカレントアクセス輸入については、１月に発表された輸入枠数量を変える必要はないと考える。

○　なお、今後の天候次第では、生乳生産や飲用需要に大きな影響を及ぼすことも想定されることから、必要に応じて、柔軟かつ早めの対応をお願いしたい。

卸売業者

【業務用】

（バター）

○　引き続き業務用国産品に関しての供給面は前年並みでのコントロールが必要とされており、新規要望に関しては外国産での代替提案が主となっている。

○　ただ、直近の乳価改定と諸経費コストの改定幅が大きく、また海外品も高騰している

ことから植物性脂肪への置き換えや、バター以外での乳脂肪分確保の動きもあり、各加工メーカーの使用量としては増える見込みは少ない。

○　今後の生乳状況と価格面から、バターの新規使用に関して、各加工メーカーは積極的ではない。

○　本格的に離れていく前に業務用に対しても安定供給面での対策が必要だと考える。

（脱脂粉乳）

○　乳価改定を伴う価格改定により販売数量の単月偏差は生じているが、使用量に大幅な増減は見られていない。需給に関して、足元の在庫感から直近で供給面に不安はないが、今期下期から搾乳牛の頭数がさらに低下する見込みを受け、乳業メーカーも継続的な新規供給に関しては慎重な姿勢となっている。

卸売業者

【家庭用】

○　市販用バターは引き続き、売場におけるバター欠品は無く、対前年比 98～99%で供給は順調であると認識している。

○　市場においては、３月・４月の値上げの影響もあったため、数量は前年を割っている。また、７月にも価格改定を控えていることもあり、市販用バターの動向としては、25 年度の需要拡大の要素は乏しいと捉えている。

○　弊社の市販用バターの納品率は３月までは 98%以上を維持しており、4 月以降に関しても、バター全体の供給に関して大きな影響はなかった。数量においては、価格改定のあった３月は一時的に減少したものの４月以降は前年並みに推移している。

○　また、主要メーカー様の家庭用商品におけるバターの在庫としては、適正であるという声が多いが、搾乳牛の減少や天候（長引く暑さ）など不安視する声も聞こえた。欠品することの無いように供給面をカバーいただくよう、一層の連携をお願いしている。

○　引き続き、生乳生産量や、外食・インバウンド需要などを注視しながら、需給調整の一翼を担うべく尽力していく。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

○　2025 年１月から４月にかけての乳製品カテゴリーは、全体としてはやや苦戦傾向となったものの、機能性ヨーグルトなど好調な商材も見られた。

○　牛乳は期間を通して軟調な推移が続き、前年を下回った店舗が多かった。一方で、３月や４月には気温上昇に伴い一部地域で需要の高まりも見られた。

○　チーズやバターなどの加工乳製品については、価格改定による単価上昇を受け、低調な推移が続いた。

○　ヨーグルトは堅調な推移を見せた。特に１月～２月にかけては、インフルエンザの流行により機能性ヨーグルトや免疫訴求型のドリンクヨーグルトが大きく伸長。３月以降も健康ニーズに支えられ、好調を維持している。

○　乳酸菌飲料については、１月と２月は比較的堅調な動きがあったが、３月以降は失速、高価格帯商品の売上が伸び悩み、前年比ではやや下回った店舗が多かった。

協同組合全日本洋菓子工業会

○　会員に対するバターの需給に関する調査では、前回（１月）は調達の「不安なし・不安解消」と「不安あり・不安増大」が半数ずつであったが、今回は前者が４割、後者が６割となり、かつ後者のうち状況悪化により「不安が増大している」との回答は前回の１割から２割に増加している。中には４月に既存の調達先から供給量を昨年比 20%減らされ、新たな調達先の目処も立たず苦慮しているとの切実な訴えもあり、地域差や個別企業の事情による差はあるとはいえ、全体として明らかに需給状況は悪化しているものと判断している。

○　国産バターから輸入バターへの切替えをおこなっている企業もあるが、国産バターに限らず輸入バターも取り合いの状況という報告もあり、今後も安定的な供給が得られない状況が続けば、洋菓子業界といえどもバター離れも将来的には進行しかねない。

○　また、価格については、乳価改定の影響も大きく、回答のあった全先が「高止まり」「上昇が続いている」としており、価格転嫁も充分にはできていない中、洋菓子業界にとって使用割合の高いバターの価格高騰は企業収益の大きな圧迫要因になっている。

○　供給量と価格の安定化のためには、現状においては輸入バターの供給量を増やすこと以外にないのではないかとの声も多く、是非ご検討をお願いしたい。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

○　昨年から年明けにかけて、クリスマス、ガレット、バレンタイン、ホワイトデーといった大きなイベントが続いた洋菓子業界だが、今シーズンも乳製品の需給状況に大きな混乱は見られなかった。またその状況は現在も変わっていない。

○　例年、夏に向かって洋菓子の売上げ、消費量は減少する傾向にあるが、最近では、秋以降の繁忙期に向けて早めの原材料確保と仕込み作業（冷凍ストック）に取り組む洋菓子店が増えていることから、夏場であっても、乳製品の需要についてはこれまでと同様の状況が続くと考えられる。ただ、例年に比べて酷暑のスタートが早いことから、この先の生乳生産に影響が出ないかが気になるところだ。

全国菓子工業組合連合会

○　令和６年の菓子生産動向は、生産金額や小売額では前年を上回ったものの、生産数量では減少し、その傾向は、乳製品を多用するチョコレート、ビスケット、洋生菓子等で顕著となっています。その中で乳製品を含む各種菓子原材料費や人件費の上昇が続き、経営を圧迫しています。

○　輸入バターのＳＢＳ入札結果を見ると、輸入価格が高止まりしており、国産バター価格より輸入バター価格の方が高いという状況が常態化しています。これは、価格志向が需要を国産バターへ向かわせることから国産バター需要を一層増加させる効果を招くと

懸念します。

○　当連合会傘下の中小菓子製造事業者には、国産バターや生クリームの使用を製品の特色としているものも多く、輸入バターでは代替できない需要も存在するため、国産バターの増産と持続的な安定供給をお願いします。

○　バターの供給については、一時の供給ひっ迫感は脱したものの、資料１の 14 頁にみられるように、今後は推定出回り量が減少するとの見通しがあり、特に第３四半期において供給のタイト感が生じると懸念しています。

○　このため、令和７年度の輸入計画は抑制的にせず、国内需要に対し十分対応可能な供給余力の確保をお願いします。また、令和５年度から導入された小規模企業者向けＳＢＳ入札制度について、使い方が浸透しておらず、結果的に最近は応札者が１社に留まっていることから、その利用者が増えない要因を分析・検証し、多くの小規模企業者が容易に利用可能なように、例えば輸入小麦や今般話題の備蓄米販売にみられるような随意契約による定価販売、更には、入札数量枠の再拡大等も含めて制度の改善をお願いします。

一般社団法人日本パン工業会

（全般）

○　６月に乳価が上昇し、乳製品価格に転嫁されるのはこれからという状況。乳価上昇に伴う価格転嫁は納得しているが、価格上昇が消費者の牛乳離れにつながり、これが逆に国産の供給等に影響が出てくることを懸念。

（バター）

○　輸入品の相場が上昇し、国産品の方が価格優位な状況。供給量については、一時期ほどではないが原料メーカーからは供給の制限がある。一方で、消費者の牛乳離れによる影響が懸念される中では、国産品は選択しづらく、可能であれば輸入品枠を拡大していただきたい。

（脱脂粉乳）

○　為替の関係で国産品が価格的に若干優位な状況。量については問題なく、引き続き安定した供給をお願いしたい。

（以上）